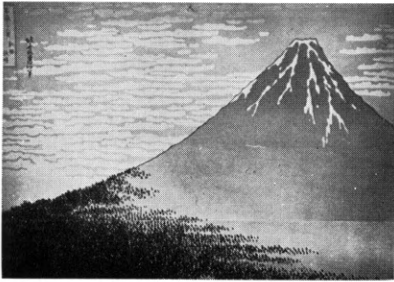


(東京—富士)



東海道線

出発ホームにて「今日は富士がよく見えますよ」「日頃の精進がいいからね」こうした会話は快晴の日 東京駅を発する東海道線の車中にささやかれる合言葉のようなものである

私たちは東海道線につて富士の見えること残念に思い 富士の見えることを ささやかなよろこびとして感じとるまでになっている ではその「富士の見える」東海道へ車窓見学案内しよう ……………

東京から富士まで

東京を離れるまで

汽笛一声、ホームを離れた列車はしばしの間、高層建築物の立ち並ぶ有楽町・新橋のかいわいを、高架線で走って行く。真新しい海底の泥砂をおもわせるような軟弱地盤に深く基礎を入れて、高架線の土台も高層建築物も電車や列車の絶え間ない震動にかりうじてもちこたえているかに見える。500km 先で行きつく大阪駅の付近もよく似た地盤であるから、幹線鉄路の路盤としては終点・起点ともに東西5分5分といつたぐあいである。

品川の駅から約7分、山の手台地が線路にせまる大森駅の構内に近い右側の車窓には「大森貝塚」の碑がある。その昔この崖の下まで海が押しよせていた頃、海岸に住まっていた先住民の遺跡を一瞬の車窓にしのぶ。

東京都と神奈川県とを境する六郷川(多摩川)の鉄橋を渡ると工都川崎。

京浜工業地帯を左に見て

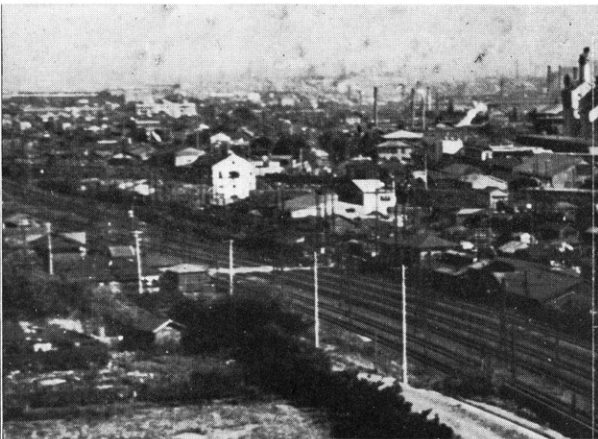
多摩川は昔、現河道より大分西を流れていた。その旧河道が川崎の駅の西はずれの産業道路のガード付近にあたっている。そこは川崎でも一番水のよく出るところで味の素や昭和電工などの多数の工場がこの水脈の上に井戸を掘って水を得ていたために、昭和10年ごろにはひどい地盤の沈下が起こり、その影響は水道の完備したいまになお残っている。深く掘ると天然ガスもでてくる。

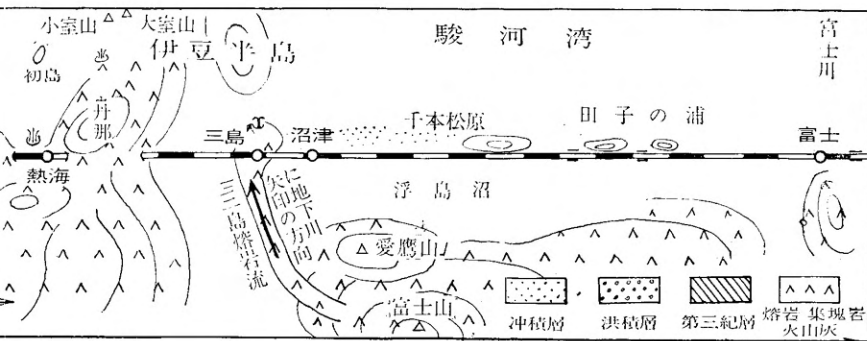
やがて渡る鶴見川の鉄橋の上からも、満潮のときには川の水面とすれすれに工場敷地や道路が見える。

ロームの崖が再び車窓にせまる生麦の付近、左側の車窓にばい煙たちこめる京浜工業地帯の中枢部を眺めればやがて横浜の駅。発車間もなく左の車窓に見上げるロームの崖、保土ヶ谷を過ぎて間もなく左に富士が見え、そして第三紀層の丘陵地帯に入る。

大森貝塚 (大森駅山手側)

横浜市鶴見区生麦の台地から





保土ヶ谷付近の洪積台地
(侵蝕されて深い谷ができ、急崖があちこちに見られる)

湘南への入り口

東海道線最初のトンネル清水ヶ谷隧道。わずかの高さの丘陵ではあるが、ここを境にして、北側に雪があるのに南側にはなく、北側では空が灰色をしているのに、南側では青空が見えたりする。まずは風光明媚の湘南への玄関口か。

ワマン道路の異名で知られた有料道路の下をくぐりぬけるあたり、左側に点々に見える第三紀砂岩層の切割には海の貝が化石となつてとれる。

砂岩の地層は大船に近づくにつれ泥岩の地層に変わりその丘陵が左右遠近のあちこちに、島や岬の形となつて立ち現われる。大船の駅がのつているのもこの頁岩盤、屏風のように観音像を囲んでいるのも同じ頁岩の地層。そしてこの地層が、ここから南へ「雨の城ヶ島」までつづく三浦半島の背景をこしらえている第三紀層の主なメンバーなのである。

砂丘をぬって一路西進

大船から鉄路は右折して一路西進。藤沢の手前、境川を境として丘陵はとだえ、これに変わつて砂丘の出現。

辻堂、茅ヶ崎と防風柵をしつらえた畑と塩風になぶられた緑の松に蔽われた砂の世界が、湘南の風景を後へ後

へと運んで行く。厚さが40mもあるこの砂の層は相模川と相模湾の波と西風とによつて見事な「湘南の砂丘」を作っている。左側の車窓に、はるか平和塔をよした江の島が見える。はだか弁天のおわしますのは第三紀の頁岩層を海が彫り込んだ「海蝕洞」の中。

島の周囲には干潮のときに海面上に現われる岩台「海蝕台」が見られる。少しく以前まで海面下にあつて絶えず波に洗われていたのが水面上に現われてきもので、「海蝕洞」や「海蝕台」はこの島の最近の「隆起」を物語っている。

やがて馬入川(相模川)の鉄橋を渡れば湘南の中心平塚。ここのホームの真西には線路の行手をさえぎるように「高麗山」が見え、右手はるかに「阿夫利山」の名で知られた大山(1567m)の三角帽子が、丹沢の群峰を率いて眼に入る。丹沢の山は第三紀層の中央に石英閃緑岩が侵入してきてできたもので、低いながらも山の地質の複雑さを示している。

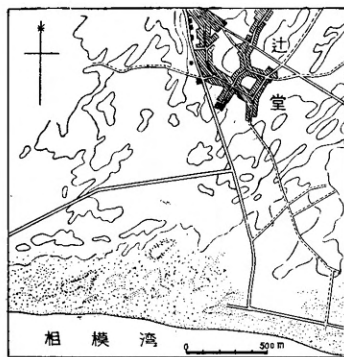
酒匂平野から火山のふところへ

御殿場線の分岐点沼津の駅を出れば、忽然とひらける酒匂平野の景観。水田の中に印刷局や(左)大同

心望む京浜工業地帯 (手前は東海道線)



鶴見川の地盤沈下 東海道線の旧橋(右)が1m程高い新橋(左)につけ替えられている 氾濫時には白線のところまで水に浸る



辻堂付近の砂丘

毛織(右)の工場が見え、そのバックとして右側御殿場線沿いには洪積層の直線状の急斜面、ほのぼのとした火山の気配を感じさせる神山・駒ヶ岳など箱根の円峯、とがつつた冷たさを感じさせる丹沢の稜線この3つが互に助け合い、これに配するに際抜きんで見える富士の麗容をもつてするこの一瞬の景観は、まことに見事な構図のまとまりをもっている。

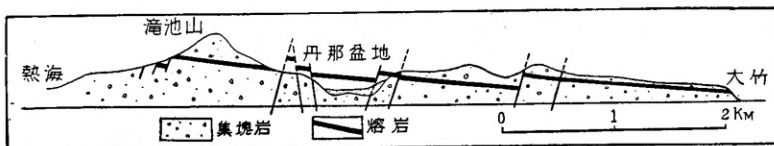
配勾川の鉄橋そして小田原を過ぎると、あとしばらくは文字通り箱根火山の脇腹伝い。右の車窓には芦の湖の唯一の排水路早川の谷、眼前にせまる熔岩の崖、根府川石の採石場——そして急斜面にはみかん畑が……。

左の車窓には見下ろす崖下に相模湾の波濤が砕け、熔岩の巨石が転び、見上げる水平線上には伊豆半島、まこと乳房のふくらみを思わせる大室・小室両火山のドームが、火山と温泉の国を象徴しているかのように望まれる。そして「精進さえよければ」左寄りに火山島伊豆大島三原山、更にはるか左に寄つて丁度半島とはこんなものばかり全貌を見せて三浦半島が視界に入る。

いずれも車窓から海上 45km と思召せ。

火山のどまん中を抜けて

箱根火山は最初の火山の真中に陥没が起り、その中に噴出した火山の中央に第2の陥没が生じて、外輪山をもつ二重火山という形をしている。現在7つの火口丘があり、陥没地帯にたまった雨水は溢れ出て早川となつたが、爆発による山崩れて途中をふさがれ芦の湖を作りだ



丹那トンネルの地質断面

したのである。

箱根の温泉はたいてい早川の谷にあるが、ひとり湯ヶ原温泉はこうした箱根火山と南隣りの熱海火山の中間に位置しており、ここの谷を越すと向う側が静岡県。

安山岩の熔岩や集塊岩を穿つた長いトンネルをぬけると、そこは天下周知の泉都「熱海」ここはまたその背後に連なる伊豆温泉郷、幾十の温泉地への入り口にも当たっている。

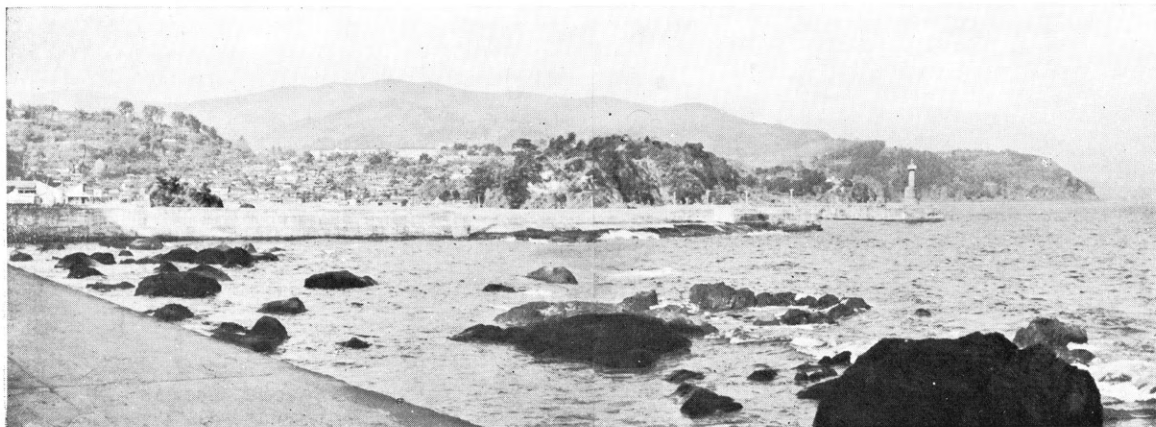
発車間もなく、丹那のトンネルに入る、全長 7,804m。大正7年東と西と両方から掘りはじめ、10年春まず東側熱海口で崩壊が起り死者16名、11年西側三島口では強力な土圧のため稀有の難工事に突入し、13年ふたたび崩壊坑内出水のため溺死者を出し、更に20気圧・120個の地下水流に遭遇し、鉄製の円筒をはめ込んで掘り進むという新手法をあみ出すに至つた。

こうして昭和9年12月1日、これまで御殿場線を廻つていた東海道が初めてここを通りぬけるまでに12年の才月を費したのであつたが、いまでは週刊誌2~3頁を読む間に過ぎてしまう。ともあれこのトンネルは、山の多い日本のトンネル工事の技術を大いに高めたという点ではどんなに高く評価されてもよいだろう。

待望の富士を正面に

丹那トンネルを出て、箱根外輪山のロームの斜面、下り勾配の10数分。左側の車窓に鋭く切り立つた安山岩の山、それに遠く天城の連山。そしてやがて三島の駅。

ここは 40km を流れ流れてきた富士山の熔岩の上のつている。鉄道路盤の右に左にその熔岩の切割が見え、足下に大空洞がある。1秒間に20トンからの水流が本邦



真鶴半島と真鶴の港

最大の地下川となつてその空洞中を流れていることを御存知か。三島女郎衆はこの水の名を売つたのである。

右の車窓に愛鷹山が見え、肩越しに富士の麗容、そしてその右、たつたいま抜け出てきた箱根の山との間に2つの火山にはさまれた裾合谷が望まれる。

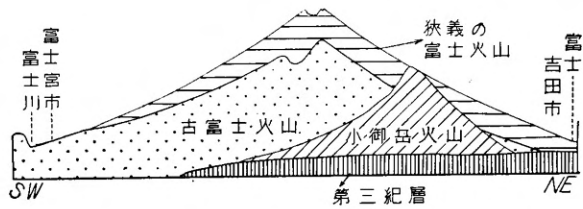
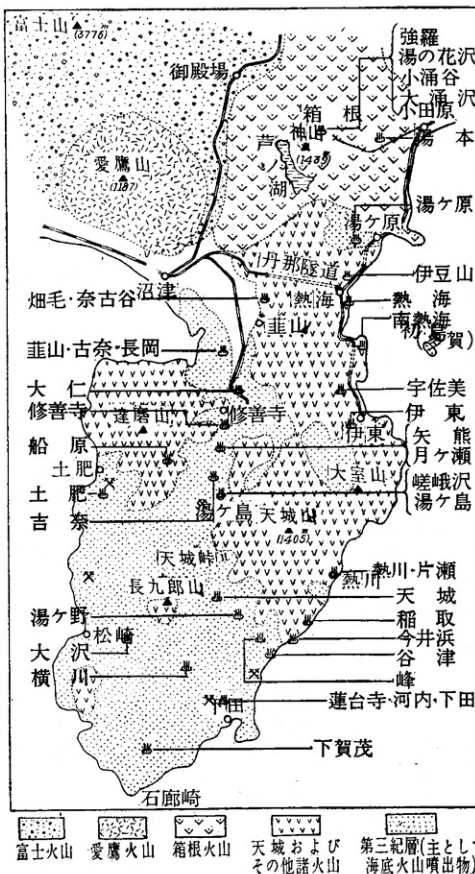
御殿場線はこの裾合谷沿いに熔岩の上をはい上つて行く。熔岩の原は沼津を経てやがて浮島沼に連らなつてゐる。その昔出水のたびに田ごと、家ごと流されて行つた浮島沼は右に見える千本松原、田子の浦一帯の砂丘のために水さばきが悪く、放水路のできた現在もお氾濫するのを常としている。

大昭和製紙鈴川工場のある吉原の駅、もうここでは富士は完全に車窓一杯に正面切つて望まれる。遠望すれば美しく単調に見える山容ではあるが、その山肌は灰と砂礫と熔岩のかげらで文字通りがさがさしており、しかもそのおいたちの記は複雑である。簡単にそれを示してもおよそ3つの富士山(断面図参照)からできていることになる。最後の一番上を蔽つている富士山も有史以来何回かの噴火をしており、現に車窓から見える宝永火口もいまを去るわずかに250年前には爆発をしていたのである。

ともあれその遠く車窓から打ち眺める山容は何度見ても見あきぬ見事さをもつていることには間違いない。そしてその見事さは富士の駅をはなれ、富士川の鉄橋を渡るあたりで一段と壮麗豪華さを加えるのである。

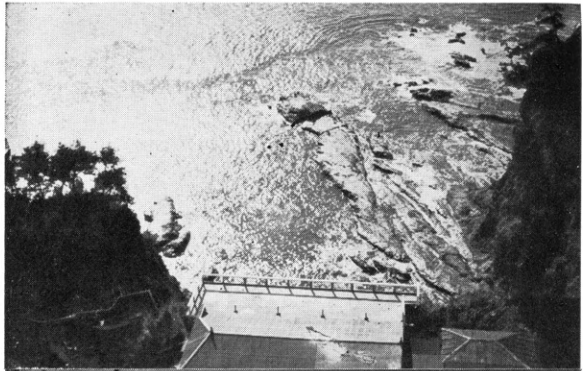
けだしこの眺望こそ東海道車窓展望中の圧巻と称しても過言ではなからう。(地質部)

伊豆・箱根の地質と温泉



富士山の模式断面図 (津屋弘達氏の原図から)

金波銀波の打寄せる江の島の海蝕台



かさ傘を冠つた富士(手前は愛鷹山)



林間に玉と顔く三島駅前の湧泉



富士川鉄橋下から望んだ富士山

